

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT



Round.7

AUTOPOLIS GT 3Hours RACE

2024年10月19日(土)～20日(日) オートポリス(大分県日田市)

■■■ピット戦略で追い上げを狙うも接触が響き 18位■■■

第7戦のレース時間は3時間。土曜日(予選日)は悪天候によりキャンセルとなり、日曜日の早朝に予選、午後に決勝が行われました。天候は曇。前日と異なり気温が急降下しており、上着が手放せない寒さです。GT300の予選は早朝8時から行われ、吉田選手が出場。通常の予選ルールと異なり、ベストラップ順でスターティンググリッドが決まります。前日からの雨がコース上に残っており、WET宣言の中、30分間の予選がスタート。レインタイヤでコースインしますが、路面が乾いていく状況を見て、3周目の終わりにピットイン。ドライタイヤに交換して再スタートするも、タイヤが温まらないため再びピットに戻り、今度はレインタイヤを装着してコースに入ります。吉田選手は7周目に1分51秒757をマークし、周回を続けますが、コースアウトする車両が発生し赤旗中断。残り約6分で再開され、吉田選手は新品のレインタイヤを装着し、コースに入りました。予選終了が迫る中、9周目に1分51秒234のベストタイムをマークするも順位は20位。GR Supraに不具合はないものの、クリアラップをとることができず、不本意な後方グリッドからのスタートに。40分間のウォームアップ走行の大半は経験の少ない野中選手が担当。野中選手は3位のタイムをマークしており、決勝のペースに手応えを感じています。

チームは野中選手をスタートドライバーに起用。最も早いタイミングで1回目のピットインを行い、単独走行でタイムを稼ぎ、上位に進出する作戦です。野中選手はひとつ順位を上げ、19位で1周目を終了。レース序盤から積極的に上位を狙い、4周目には15位まで順位を上げます。作戦通り5周目の終わりにピットイン。給油のみの作業でピットアウトします。コースに復帰した野中選手の順位は25位。行く手をさえぎる車両はなく、野中選手はベストタイムを更新しながら追い上げを開始。9周目、上位のピットインにより24位に上がると、14周目には2台をパス。22位に上がります。この頃になると、多くのライバルが1回目のピットインを行うようになり、20周目には16位へ。さらに22周目には、GT500のアクシデントによりSC(セーフティカー)が導入され、上位との差が一気に詰まります。27周目からレース再開。1回目のピットインを終えていないライバルが次々とピットに入り、29周終了時点で8位まで浮上。ピットインを終えたチームの先頭につけており、野中選手は事実上のトップを走行しています。しかし30周目、後方から追いついてきた#2GR86と接触。運転席側のフロントタイヤから白煙が上がっており、野中選手はピットイン。メカニックが給油とタイヤ交換を行います。フェンダー内部が破損しており、大きくロスします。応急処置を終え、再スタートをきりますが、順位は周回遅れの最後尾(26位)で、勝負権を失います。野中選手は集中力を切らさず、力強いペースで周回。44周目の終わりにはルーティンのピットインを行い、吉田選手に交代します。給油とタイヤ交換を行い、26位のままレースに復帰。2回のSCが導入され、荒れた後半戦となる中、吉田選手はあきらめることなく、同一周回のライバルを相手にオーバーテイクを連発。18位でチェッカーを受け、今後につながるレースとなりました。

決勝結果(GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 18位(86周、3時間01分33秒880)

予選: 20位(1分51秒234)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

予選後：前戦の経験を活かそうと思った結果、慎重過ぎてしまい、判断が後手になりました。赤旗の前にタイムを出した周も相当引っかかって、タイム的にもコンマ6、7秒ぐらい落としていたので、もったいなかったです。一旦タイムを出したくて、チームが情報をくれていたのですが、ぼくが焦ってしまいました。もうちょっとうまくまとめればタイムや順位を上げられたと思います。思い切った作戦を取るしかジャンプアップする方法がないので、チームが考えたトリッキーな作戦で誠太と一緒に追いつきたいです。

決勝後：ああいう状況でぼくにまわってきたので、攻めるとか人と戦うことができず、ゆずらなければいけない状況でした。タイム的には悪くなさそうで、今後に向けてどういうバランスになるか、参考になりました。そういう意味では一生懸命走って良かったと思いますし、まわりと比べても悪くないペースで走れたので、今後につなげないといけないという感じです。こういう結果にはなってしまったのですが、まずは最低限完走することができました。勝ちを狙うしかない状況だと思うので、残り2戦頑張ります。



野中誠太 選手

予選後：ぼくは乗る予定がなかったので、ライバル勢のタイヤをチェックしに行き、他車の走行位置を把握し、情報をなるべく共有しようと思っていました。ただ、それよりもどのタイヤを使うという判断が難しかったので、結果として悔しい予選でした。オートポリスでの経験が少ない中でスタートドライバーを担当する予定なので、このあとの40分間のウォームアップの1周、1周を大事に走り、なるべく良いイメージを作っていきたいと思います。

決勝後：GR Supraは久しぶりな上、オートポリスの経験も無かったのですが、ウォームアップで優先的に乗ったことで、決勝に向けていいイメージを作れました。決勝は思っていた通りかなり荒れたので、落ち着いて順位を上げていき、5周目にビットへ入り、単独で走る作戦を実行し、タイヤも守りながらいいペースで走ることができました。2号車とのレーシングアクシデントが起き、タイヤがバーストしてしまいましたが、ちょっと納得いかない接触で、ドライバー同士で話し合う必要があり、残念な形になってしまいました。

GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	VENTENY ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	88周
2位	muta Racing GR86 GT (トヨタ GR86)	88周
3位	K-tunes RC F GT3 (レクサス RC F GT3)	88周
4位	Studie BMW M4 (BMW M4)	88周
5位	D'station Vantage GT3 (アストンマーティン ヴァンテージ GT3)	88周
6位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	88周
18位	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	86周

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	65	K2 R&D LEON RACING	79
2位	8	muta Racing INGING	79
3位	88	JLOC	67
4位	777	D'station Racing	60
5位	7	BMW M Team Studie×CRS	53
6位	56	KONDO RACING	43
10位	52	埼玉 Green Brave	37

PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社アルシェ



株式会社 FM NACK5



小倉クラッチ株式会社



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和



株式会社セーフティライフ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



東京麒麟ビバレッジサービス株式会社



BP カストロール株式会社



株式会社プロモーション



マックメカニクスツールズ株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社 REIZ

次戦予告

11月2日～3日
モビリティリゾートもてぎ